

1. 2009年度の事務部の行動目標

事務部では2009年度行動計画に基づき、企画総務室が「マネジメント能力の強化」、医事室「電子化の有効利用で患者・職員満足度アップを目指そう」、医療相談室「地域全体を視野に入れた連携活動の実践」、診療情報管理室「公開できる診療録作り（円滑な電子化と共に）」を部署毎のスローガンに定め、活動を実践した。2009年度の行動目標は下記の通り。

- ①顧客満足の上昇
  - ・患者満足の上昇：待ち時間の調査分析と改善策の立案実践、接遇の上昇、マーケティングの実施
  - ・診療現場への支援：医療秘書と連携による医師事務作業の軽減
  - ・診療情報の公開：広報物・入院時説明手法の見直し、脳卒中診療情報の提供
  - ・連携先機関とのパートナーシップ強化：脳神経外科常勤化による診療機能情報提供、紹介・返書実績の管理、近隣医療機関・施設の機能情報共有
  - ・患者アクセスの整備：路線バスの誘致 など
- ②業務の効率化と質の上昇
  - ・情報電子化への対応：電子カルテ導入に伴う従来業務の再編、誤入力撲滅への取り組み
  - ・外来患者増への対応：外来診療の効率性向上
  - ・診療情報管理体制の見直し：電子化に対する業務基準の見直し、癌登録マニュアルの整備、コーディングの精度向上
  - ・コンプライアンスの徹底：監査指摘・指導0を目指す
  - ・リハビリの充実：屋外リハビリ庭園の整備 など
- ③スタッフの成長・育成
  - ・スキルアップ：電子カルテを使いこなすための知識取得励行、業務に有用な資格取得励行、外部研修への参加、自発的勉強会の開催、学会・研究会での発表励行、診療情報管理士の資格取得、全スタッフ対象の勉強会・講習会の企画、研修予算の見直し
  - ・優秀な人材確保：看護学校の早期訪問、HP等を用いた情報提供
  - ・研修の充実：教育プログラムに基づく計画的研修の実践
  - ・ワークライフバランスの推進：有休取得率の向上、効率的横断研修の実施 など
- ④収益性向上と経費の低減
  - ・収益UP：円滑な外来運営、病床利用率向上、紹介率向上
  - ・22年度診療報酬改定への対応：情報の早期収集と対策立案
  - ・未収金対策の強化：長期未収の解決、MSW介入による医療難民の救出
  - ・コスト管理の強化：電子化による効率化の評価
  - ・管理会計の強化：部門別原価計算への取り組み、費用の予算管理強化 など

2. 2009年のトピックス

- ①人員体制整備
 

4月に医師2名、看護師4名、理学療法士2名、作業療法士1名、検査技師1名の新入スタッフを迎えることができ、職員151名、業務委託49名の体制で2009年度をス

タートさせた。しかしながら医師・看護師の売り手市場はかわっておらず、人材確保活動の一環として就職説明会等に参画しているが、採用までつながった例は少ない。医師に関しては、麻酔科医が年度途中で非常勤化し、済生会熊本病院麻酔科や熊本大学医学部附属病院麻酔科から支援いただきながら日々の診療を進めた。また新しい医師確保のために個別のアプローチを進め、2010年4月より消化器科医師と心臓血管外科医師の獲得ができる予定や、2010年度途中や年度末での就業の話もあり、少しではあるが明るい兆しも見えてきた。

- ②電子カルテ本格始動
 

3月のオーダーリングスタートから4カ月経った7月より医療情報の電子化を本格始動した。全職員総掛かりでのキックオフから9カ月という短期でのスタートではあるが、大きなトラブルもなく順調に稼働している。しかしながら使ってみて初めて表面化した課題や業務施行上の問題もあり、課題を一つずつクリアしていきながら、当院ならではの使いやすいシステムの構築を進めたい。なおこの取り組みについて企画総務室の山内室員が“パッケージ型電子カルテの短期導入に伴う目的と意識の統一”と題して、大阪市で行われた第62回済生会学会医学共同研究・医療情報システムのセッションにおいて発表した。
- ③スタッフ育成
 

全職員を対象とし各種の研修を計画的に開催した。スタッフには事前に年間スケジュール表を渡し、参加したものは表に捺印し参加率の向上を図った。オンデマンドを用いた研修も軌道にのり、当日受講できなかったスタッフも後日図書室などで受講している姿を見かけるようになった。
- ④院長交代
 

瀬井圭起先生の定年退職により、9月より新たに藤岡正導院長が就任した。院長交代に伴う瀬井前院長の慰労会を熊本病院の関係者に参加いただき、9月4日に大矢野町の亀屋ホテルにて開催した。瀬井前院長は開設以来の功績をたたえ、当院名誉院長の称号を授与した。名誉院長は当院医師不足の現状をご配慮いただき、一医師として引き続き診療支援いただいている。
- ⑤新型インフルエンザの猛威
 

H1N1の新型インフルエンザの流行により、発熱外来を設置し一般外来患者と隔離した診療体制を敷いた。敷地内には発熱者を誘導する看板を設置し、建物への入口から一般患者の動線とは区分した。これにより一般患者が安心して受診できる体制を敷くことが出来、今回の流行時の恰好のシミュレーションとなった。
- ⑥地域貢献
 

3月6日（土）に恒例の清掃奉仕を行った。小雨交じりの生憎の天気ではあったが、多くの職員が参加し弓ヶ浜までの5kmの道のりをグループに分けて清掃した。また翌週の3月14日（日）に開催されたパールラインマラソンには例年同様多くのスタッフがボランティアとして救護活動協力をしてくれた。
- ⑦監査
 

10月に定例の保健所の医療機関立入調査が行われた。今年度は指摘改善事項はなく、良好な運営を評価された。また2月には厚生労働省の監査が行われ無料低額診療事業の実績改善にむけた新しい取り組みを指導された。今



みすみ病院 経営指票

項目	区分	計算式	単位	07年度	08年度	09年度
病床数	許可数		床	140	140	140
	実働数	年間実働病床延数/365	床	140	140	140
一日平均患者数	入院	年間在院患者延数/365	人	107.7	112.2	113.4
	外来	年間外来患者延数/年間診療日数	人	128.1	130.0	133.1
	紹介患者率	紹介患者/新患入外患者	%	—	—	—
	外来対入院比率(暦年)	一日平均外来患者数/入院患者数	—	1.2	1.2	1.2
財務比率	平均職員数	毎月末職員数合計/12ヵ月	人	137.8	144.0	151.3
	平均医師数	毎月末医師数合計/12ヵ月	人	12.4	9.6	11.25
	流動比率	流動資産/流動負債	%	332.9	430.1	426.5
	自己資本率	自己資本/総資本	%	3.9	70.6	70.6
	負債比率	他人資本/自己資本	%	2,469.0	41.7	44.4
	固定比率	固定資産/自己資本	%	1,672.8	86.2	91.4
	固定長期適合率	固定資産/(自己資本+固定負債)	%	72.7	66.9	69.2
	総資本回転率	医業収益/総資本	回	0.75	0.78	0.76
	借入金比率	借入金平均残高/医業収益	%	23.1	21.7	16.3
収支比率	人件費率(含む委託人件費)	(人件費+委託人件費)/医業収益	%	51.4	51.3	52.6
	材料費率(医薬品・診療材料)	材料費/医業収益	%	27.1	27.3	27.3
	経費率	経費/医業収益	%	7.5	6.8	5.4
	賃借料率(再掲)	機器賃借料/医業収益	%	1.2	0.2	0
	委託費率(除く人件費)	委託費/医業収益	%	4.5	3.2	3.6
	減価償却費率	減価償却費/医業収益	%	7.6	7.1	8.0
	医業収支比率	医業費用/医業収益	%	98.8	96.4	97.5
	金融費用比率	支払い利息/医業収益	%	0.0	0.0	0.0
	医業利益率	医業利益/医業収益	%	1.2	3.6	2.5
	経常利益率	経常利益/医業収益	%	1.5	3.9	3.1
	成長率	当期医業収益/前期医業収益	%	107.9	106.6	103.3
生産性指標 労働効率	職員一人当り医業収益	医業収益/年間平均職員数	千円	14,133	14,413	14,166
	職員一人当り経常利益	経常利益/年間平均職員数	千円	2,291	8,357	5,919
	医師一人当り医業収益	医業収益/年間平均医師数	千円	157,059	216,196	190,522
	100床あたり職員数	年間平均職員数/年間実働病床数	人	98.4	102.9	108.1
	入院患者100人当り職員数	年間平均職員数/年間平均入院患者数	人	127.9	128.3	133.5
	外来患者100人当り職員数	年間平均職員数/年間平均外来患者数	人	107.6	110.8	113.7
	入院患者一人一日当り収益(一般病棟)	入院収入/入院患者延数	円	31,721	32,609	32,707
	入院患者一人一日当り収益(回復期病棟)	入院収入/入院患者延数	円	24,806	25,353	27,736
	外来患者一人一日当り収益	外来収入/外来患者延数	円	18,271	19,385	19,683
	労働生産性	(医業収益-人件費以外全)/年間平均職員数	千円	6,909	7,182	7,062
労働分配率	人件費/(医業収益-人件費以外全)	%	97.5	92.8	95.0	
生産性指標 病床効率	一床当り医業収益	医業収益/実働病床数	千円	13,911	14,825	15,310
	一床当り利益剰余金額	利益剰余金/実働病床数	千円	374	12,713	463
	一床当り固定資産額	固定資産/実働病床数	千円	12,089	11,576	12,701
	病床利用率(一般病棟)	年間在院患者延数/年間実働病床数	%	79.2	79.0	79.2
	病床利用率(回復期病棟)	年間在院患者延数/年間実働病床数	%	70.3	77.0	79.7
	平均在院日数(一般病棟)	年間在院患者延数/((入院+退院)/2)	日	18.1	17.1	18.5
	平均在院日数(回復期病棟)	年間在院患者延数/((入院+退院)/2)	日	47.8	54.1	58.8
	病床回転率(一月当り 一般病棟)	365/12/年間平均在院日数	回	1.69	1.78	1.64
病床回転率(一月当り 回復期病棟)	365/12/年間平均在院日数	回	0.64	0.56	0.52	